

みなさんと共に「いい町」づくり
生き生きハートフルタウン

広陵町

奈良県
広陵町
町勢要覧
2014





目次

Contents

P01	目次
P02	ご挨拶 町民憲章
P03	プロフィール
P05	まちのやさしさ 人のやさしさ アンケート
P09	広陵町の歩み
P11	古墳と文化遺産
P15	祭り・イベント、かぐや姫伝説
P17	広陵町の産業
P19	広陵町の自然
P21	広陵町の生活環境・防災安全
P23	広陵町の教育・福祉
P25	第4次総合計画基本構想
P27	行政・議会
P29	広陵町 MAP



町の木
「木犀 もくせい」



町の花
「向日葵 ひまわり」

わたしたちのまち広陵町は、奈良盆地のほぼ中央に位置し、豊かなみどりとやさしい人々が息づく魅力ある町です。

本町は、南北に走る高田川・葛城川・曾我川が流れ、その周囲では整然とした田園風景が広がり、町全体が自然であふれています。また、西部地域の馬見丘陵には、巢山古墳をはじめ、県を代表する大きな古墳が多数存在し、歴史のロマンが色濃く息づくとともに、真美ヶ丘ニュータウンの開発により、大都市近郊の良好な環境の新興住宅地として人口が伸び続けています。



広陵町長 山村吉由

本町は、『みなさんと共に「いい町」づくり』をスローガンに、対話を重視し、地域と行政が一体となって共に成長・発展できる「協働のまちづくり」を目指しており、子どもから高齢者までのびのびと元気で「住んで良かった」と思ってもらえるよう、まちづくりを進めています。

本町の魅力をひとりでも多くの方々に知っていただく一助になれば、との思いから町勢要覧を刊行いたしました。今後のまちづくりを皆様に知っていただき、お力添えをいただければ幸いに存じます。



町 民 憲 章

わたしたちは、緑の自然と古い歴史に育まれ、豊かな未来の創造をめざす広陵の町民です。

- 広陵町民は、心のふれあいをたいせつにします。
- 広陵町民は、美しい自然をたいせつにします。
- 広陵町民は、歴史と文化をたいせつにします。
- 広陵町民は、老人を敬い、子どもの未来をたいせつにします。
- 広陵町民は、健康と働くことをたいせつにします。

昭和52年12月20日制定



町章

広陵町のプロフィール

奈良県で最も

人口の多い「町」

広陵町は、奈良盆地の中西部にあり、近畿圏の中核都市である大阪市へ直線距離約30kmに位置しています。交通の利便性が高いことから、西部地域の真美ヶ丘ニュータウン開発以降人口が急増し、奈良県で最も人口の多い町になりました。現在も人口増加率は奈良県の市町村中第3位と高水準を維持しています。（平成23年奈良県人口統計）



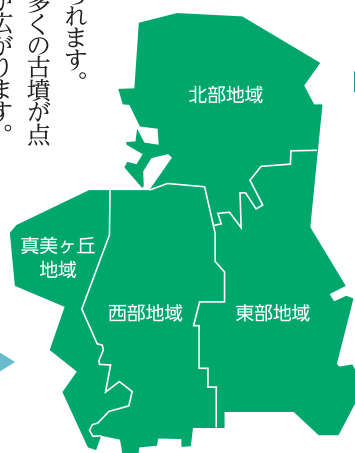
自然環境

ゆたかな「町」

町は、箸尾駅を中心として発展してきた北部地域、地元の軌下産業が息づく西部地域、のどかな田園風景が広がる東部地域、閑静な住宅街が広がる真美ヶ丘ニュータウン地域と大きく4つに分けられます。

町西部の「馬見古墳群」には多くの古墳が点在し、歴史ロマンあふれる景観が広がります。

広々とした敷地の「竹取公園」は、四季の花と緑が美しい町民憩いの場。真美ヶ丘ニュータウンを南北に走る「かつらぎの道」は緑豊かな遊歩道です。広陵町は、暮らしの中で自然を感じることができる町です。

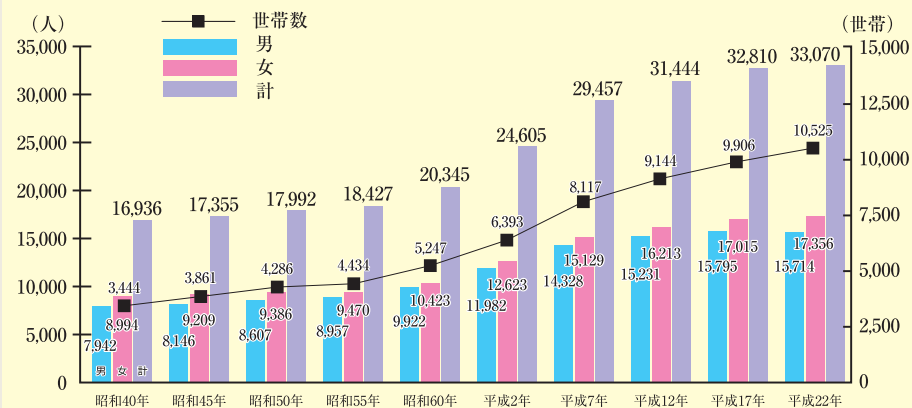


広陵町の プロフィール

KORYO

人口推移

【資料：国勢調査】



人口・世帯数

面積	16.33km ²
人口	34,637人
世帯	12,115世帯
男性	16,638人
女性	17,999人

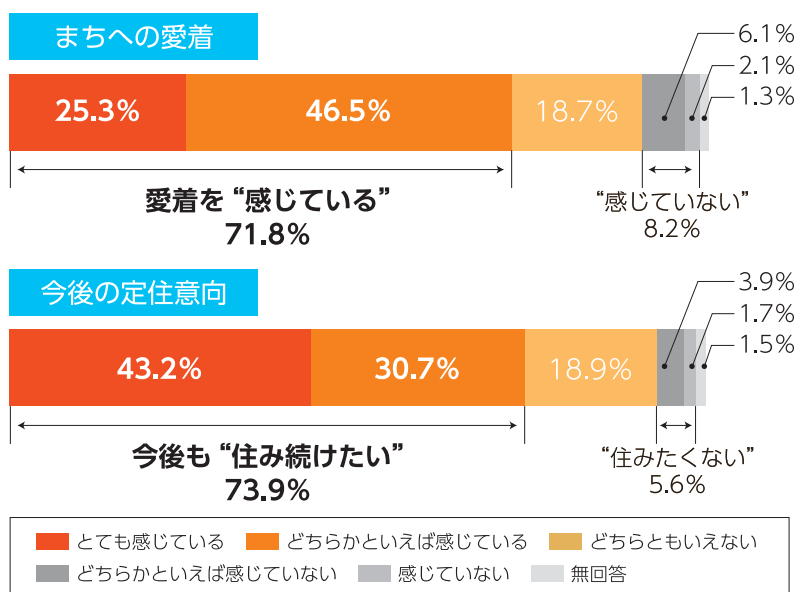
〔平成25年12月31日現在〕



幼稚園・保育園から大学までの教育施設が整う広陵町は、町の環境を活かした自然体験、職業体験等を通して豊かな心を育むことができ、大学では一般向けの講演会が開催されるなど、子どもから大人まで学びの機会にあふれた町です。

町外の利用者も多い広陵町立図書館は、ま

学びの機会にあふれた「町」



歴史遺産が多く自然が豊かでありながら、生活環境が整い、快適な住環境が実現できる広陵町。

平成23年実施の町民アンケートでも、「とても愛着を感じている」「どちらかという愛着を感じている」を合わせると7割以上の人が愛着を感じている結果となりました。また、今後の定住意向についても、「住みたい」「どちらかといえば住みたい」を合わせて7割を越えており、多くの町民が「愛着を感じ、今後も住み続けたいと考える町」であることがうかがえます。

住み続けたい「町」

公共施設所在地

- | | | | |
|---|---|---|--|
| ■ 役場本庁
広陵町大字南郷583番地1
(0745)55-1001 | ■ 総合保健福祉会館「さわやかホール」
広陵町大字笠161番地2
(0745)55-4010 | ■ はしお元気村
広陵町大字弁財天295番地3
(0745)57-3232 | ■ エコセンター
広陵町馬見南3丁目9番30号
(0745)55-3168 |
| ■ クリーンセンター広陵
広陵町大字古寺81番地
(0745)57-2000 | ■ ふるさと会館 グリーンパレス
広陵町大字笠168番地
(0745)55-5755 | ■ 広陵パークゴルフコース
広陵町大字百済2438番地1
(0745)55-8957 | ■ 中央公民館
広陵町大字笠382番地1
(0745)55-1181 |
| ■ 交通公園
広陵町大字古寺144番地1
(0745)57-0881 | ■ 広陵消防署
広陵町大字正相374番地1
(0745)55-4123 | ■ 文化財保存センター
広陵町大字南郷583番地1
(0745)55-1001 | ■ 中央体育館
広陵町大字笠350番地1
(0745)55-4414 |
| ■ 図書館
広陵町大字三吉396番地1
(0745)55-4946 | ■ 竹取公園
広陵町大字三吉391番地1 | | |

人にやさしい 人がやさしい 元気なまちづくり

広陵町に住む人々に町の良さや、
やさしさを感じるところを、
聞いてみました。

Kind Experience

まちのやさしさ 人のやさしさ アンケート



Young 01

20歳 学生 男性

行事に参加し、それを通して町民との絆が深まり、自分も町民のひとりであると感じた時、住んでいて良かったと思います。

Young 02

20歳 会社員 女性

よくボランティア活動をしている人を見ます。広陵町に住んでいる人たちのために頑張っている姿を見ると、町や人の優しさを感じます。



Young 03

20歳 学生 男性

大阪の大学から都会の喧騒に疲れて帰ってくる度、夜の静かな雰囲気になが癒されます。

Young

Enquête

Junior 01

11歳 小学生 女兒

みんながみんな優しく、広陵町をより美しくしてくれそうなので、広陵町に住んでいる人や、広陵町の町全体が一番大好きです。



11歳 小学生 男児

竹取公園や馬見丘陵公園に、楽しい遊具やきれいなお花があるところが好きです。

Junior 02

Junior

Junior 03

8歳 小学生 女兒

きれいで、遊具もたくさんあり、みんなで遊べる公園がいっぱいあるところが好きです。



人にやさしい 人がやさしい 元気なまちづくり

Middle

Middle 01



37歳 自営業
男性

「靴下の町」と呼ばれるこの町で、その地場産業に関われる喜びと、地域住民の方々の温かいところが好きです。



Middle 02

30歳 主婦 女性

緑や公園がたくさんあり、子どもだけでなく大人も楽しんでいます。

Middle 03

39歳 主婦 女性

大きな公園や田畑、緑が多いところ。あとやさしい人が多いところが好きです。



Middle 04

32歳 会社員 女性

新しく町に住むことになりましたが、役場の方の対応がとても丁寧でした。これから暮らしていくのがとても安心です。



Enquête

Senior

Senior 01

72歳 農業 男性

会う人みんなが礼儀正しい挨拶をしてくれます。温かい心が力となり、親しみを持てます。



Senior 02

75歳 無職 男性

一昨年にオープンしたパークゴルフコースは、子どもから高齢者まで男女とも気軽に楽しむことが出来ます。町内はもちろん、町外の方も多数訪れ、コースメンテナンスも最高と好評です。健康づくりのため多くの方が利用されています。



Senior 03

71歳 無職 男性

町では老人会の活動が活発です。さわやかホールで毎月入浴、食事会、カラオケ等が行われています。また年一回親睦旅行もあり、仲間意識が高まるなど楽しんでいます。



Senior 04

64歳 無職 女性

豊かな自然がいっぱいで、大きな災害もなく、隣近所のお付き合いもあって、人情味豊かなところが好きです。

町の系譜

― 広陵町の歩み ―

昭和30年4月、馬見町・瀬南村・百済村が合併して誕生した広陵町。
以来、町の歴史は、この場所と同じ時を生きた人とともに刻まれてきました。
町が育んだ沢山のメモリアル。人々の記憶につながる、
広陵町の系譜を紹介します。

昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和39年	昭和40年	昭和42年	昭和43年	昭和44年	昭和45年	昭和46年	昭和47年
4月	5月	9月	7月	4月	1月	5月	9月	9月	8月	5月	9月	8月	12月	4月	6月
広陵町発足(馬見町・瀬南村・百済村が合併)	池端若松氏が初代町長に当選	箸尾町が広陵町へ編入	池尻・藤森が分町、大和高田市へ編入合併	町営上水道工事完成	広陵中学校新校舎竣工	奈良県の事務合理化モデル町に指定	第二室戸台風上陸、町内に大きな被害	小学校で学校給食開始	東小学校竣工	『広陵町史』刊行	広陵健民運動場竣工	西小学校竣工	「夏秋なす」国の野菜指定産地に決定	馬見・百済・瀬南・箸尾の四農協が合併、	広陵町農業協同組合発足
4月	5月	9月	7月	4月	1月	5月	9月	9月	8月	5月	9月	8月	12月	4月	6月
新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)	新庁舎竣工(現町庁舎)
野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル	野村豊和氏オリリンピックミュンヘン大会柔道で金メダル



平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
10月	4月	5月	5月	7月	5月	8月	5月	6月	10月	7月
広陵消防署事業開始	ふるさと会館グリーンパレスオープン	広陵中学校改築竣工	シルバー人材センター開始	在宅福祉推進の町として厚生大臣表彰を受ける	真美ヶ丘体育館完成	林田孝一氏町長に当選	竹取公園開園	広陵金明太鼓発足	かぐや姫ホール竣工	与楽寺十一面観音立像発見
10月	4月	5月	5月	7月	5月	8月	5月	6月	10月	7月
第一回かぐや姫サミット開催	町内全小学校へパソコン設置	野村忠宏氏オリリンピックアトラクタ大会柔道で金メダル	野村忠宏氏が名誉町民に	広陵町勤労者総合福祉センター	(サン・ワーク広陵)竣工	町立図書館オープン	広陵町ホームページ開設	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞
10月	4月	5月	5月	7月	5月	8月	5月	6月	10月	7月
竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞	竹取公園が建設省「手作り郷土賞」受賞



重要文化財

優美な重要文化財

百済寺三重塔

百済寺は、『日本書紀』舒明天皇十一年(639)七月の条に「詔して曰く、今年大宮及大寺を作らむ。百済川の側を以て宮処と為す。」と記載され、聖徳太子が開いた熊凝精舎(くまごりしょうじゃ)を前身とする日本初の官寺「百済大寺」の伝承地。

塔は三間四方で、初層に廻縁を張り、2・3層には高欄を付け、本瓦葺きで彩色が施されています。和様の優美な姿でそびえる三重塔は、鎌倉時代の建立と伝えられ、重要文化財指定。本堂は大織冠(たいしょくかん)と呼ばれ、談山神社の本殿を移築したもので毘沙門天像、菩薩立像がまつられています。また境内には、弘法大師が掘られたと伝わる梵字池が残ります。



歴史と生きる 広陵町の 古墳と文化遺産

広陵町のあちこちに残る古墳や文化遺産は、古墳時代から現在まで、ここに生きたひとびとが築き、はぐくみ、そして守り続けたこの地への思いの証です。千五百年の時を町とともに過ごす古墳や、『日本書紀』に記された官寺の伝承地にそびえる塔、信仰を集めた仏たちをはじめ、町の遺産は受け継がれる思いの深さと歴史を今に伝えています。

正楽寺 2mを越える本尊

十一面観音立像

(奈良県指定文化財)

古寺環濠集落の中にある正楽寺観音堂に安置される本尊。2mを越える広陵町内で最大の仏像は、体幹部分正面二材、背面四材からなる檜の寄木造り。平成七年の解体修理の際、発見された墨書銘から僧永覚の縁者の祈願により造立されたことが判明しました。肩幅が広く、腕をゆったりと構えた姿は均整がとれ、おだやかな表情が印象的です。単調な肉とりや浅く刻んだ衣文の表現などから、平安時代末期の制作と考えられています。



大福寺

聖徳太子の建立と
伝えられる寺

十一面観音立像

(奈良県指定文化財)

聖徳太子の建立と伝えられる大福寺は、江戸時代には三十石が下付され、徳川家康から家茂までの歴代将軍の朱印状が残ります。

十一面観音立像は、左に難陀竜王(なんだりゅうおう)像、右に雨宝童子(うほうどうじ)像を侍立する長谷寺形式の三尊像で、全てが現存する数少ない遺品のひとつ。像内墨書から箸尾殿の立願により永禄三年(1560)に造立されたことが判明しています。奈良の仏師集団、宿院(しゅくいん)仏師の制作で、彩色せず、檜材の美しい木肌がそのまま生かされた仏像です。



歴史を刻む文化遺産の数々

与楽寺

類例のない
十一面化仏の配置

十一面観音立像

(重要文化財)

与楽寺西観音として伝えられる十一面観音立像の解体修理によって像内から発見された高さ31cmの仏像。マユミの一本造で頂上の仏面から蓮華座まで緻密な彫刻が施されています。宝冠が庇のように張り出す形は類例がなく、頭上面が三面(上段1・下段2)を1単位として正面及び左右に配列されることも特筆に値します。

洗練された目鼻立ちや肉感的表現は盛唐彫刻の感覚を濃厚に伝えており、法隆寺の国宝九面観音立像に並ぶべき優品です。



弘法大師座像

(奈良県指定文化財)

三間四方の四注造本瓦葺の本堂に祀られる本尊。右手に五鈷杵(ごこしゅ)、左手に数珠を持つ像高83.6cmの座像です。後頭部内部の墨書から応安六年(1373)に実尊、僧乗円の本願により大仏師僧行盛が造立したことがわかり、年代は奈良市元興寺所蔵の弘法大師像に次ぐ古さです。

また境内の南には、弘法大師が掘られたと伝えられる梵字池、修行石が残ります。



まちに残る

王たちの墓

広陵町の西部に広がる馬見古墳群。佐紀盾列古墳群、大和柳本古墳群と並ぶ大和三大古墳群のひとつで、この2市3町に誇る丘陵地一帯で、250基を超える古墳が築かれています。権力者の埋葬地である古墳は、権力の象徴であり、力を誇示し、継承するためのモニュメントでもあります。馬見丘陵に古墳が築造された4～5世紀、この地は有力な古代豪族、葛城氏の勢力下にありました。葛城氏の繁栄と衰退という時流とともに、古墳の規模も変遷を遂げたと考えられています。

馬見古墳群中最大規模
葛城王の墓といわれる

すやま

築山古墳（特別史跡）

馬見丘陵の中央部に位置する北向きの前方後円墳。墳丘全長220m、後円部径約130m、前方部幅112mで、馬見古墳群中最大級の規模を誇ります。左右のくびれ部には造り出しを設け、周囲には水を湛えた周濠と外堤が巡ります。墳丘は三段築成で各段には埴輪列が並び斜面には葺石が葺かれています。埋葬施設は後円部中央に竪穴式石室が2基、さらに前方部にも石室が造られていました。

出土遺物は玉類と腕飾類、鏡、冠等が伝えられており、整備のための発掘調査で出島状遺構を発見、水鳥、家、蓋、盾、罎、柵等の形象埴輪が多数出土しました。また周濠からは「古事記」に記された、遺骸を載せる「喪船」が出土。その規模と出土品から4世紀末～5世紀初に築かれた葛城氏の王墓とみられています。





石室内が見学できる大型円墳

ばくや

牧野古墳 (国指定史跡)

丘陵奥部にある直径約50mの大型円墳で、墳丘は三段築成で造られ、二段目には全長17.1mを測る大型横穴式石室が開口しています。玄室内には奥壁に沿って横向きに家形石棺が置かれ、副葬品として金環と各種の玉類や馬具二組分が出土。武器は銀装の太刀と400本近い鉄鏃があり、石室入り口には総数58点の須恵器が発見されました。6世紀末葉の古墳で、『延喜式』に示す押坂彦人大兄皇子(舒明天皇の父)の成相墓の可能性が指摘されています。なお石室内は、事前申込により見学することができます。(問合せ先：広陵町文化財保存課)



墳丘全長45mの帆立貝式古墳

みつ よしい しづか

三吉石塚古墳 (県指定史跡)

新木山古墳の西に築かれた東向きの帆立貝式古墳で、墳丘全長45m、直径41.4mの後円部に幅22mの短い前方部が付きます。周囲に馬蹄形の周濠と外堤があり、堤を含めた全長は62m。墳丘は二段築成で、第一段目には円筒埴輪の他に蓋、短甲、家形埴輪が立てられていました。埴輪から古墳時代中期後葉の築造と考えられています。

現在は、遺構を盛土で保存した上に築造当初の姿に復元する工法で整備しています。また円筒、朝顔形埴輪は、出土遺物に基づき製作した複製品を設置し、築造当時の積み方で石を葺いています。



34面の鏡が出土した

しんやま

新山古墳 (陵墓参考地)

馬見丘陵の南東端の支丘上に築かれた前方後方墳。墳丘全長126m、後方部幅67m、前方部幅66mで、出土した埴輪から古墳時代前期中葉、馬見古墳群のなかで最初に造られた古墳と考えられています。明治18年に後方部中央の竪穴式石室から、車輪石、楕形石などの石製品とともに中国晋代の帯金具に類似した金銅製帯金具や三角縁神獣鏡、直弧文鏡など34面の鏡のほか多数の副葬品が出土しています。現在、大塚陵墓参考地として宮内庁の管理下におかれています。



墳丘200mの大型前方後円墳

にきやま

新木山古墳 (陵墓参考地)

丘陵中央群の中で最も南に位置し、前方部を東に向ける前方後円墳。墳丘200m、後円部径120m、前方部幅118mと巢山古墳とともに馬見古墳群で中核をなす大型古墳です。くびれ部には造り出しが付き、周濠、外堤が伴います。古墳の築造時期は円筒埴輪から古墳時代中期前半と考えられ、巢山古墳に続いて築造されました。歴代天皇や皇族らの墓の可能性がある陵墓参考地のひとつ、三吉陵墓参考地であり、副葬品と考えられる勾玉、管玉、璽玉は宮内庁で保管されています。



人をつなぐ 人がつながる 祭・イベント



かぐや姫まつり

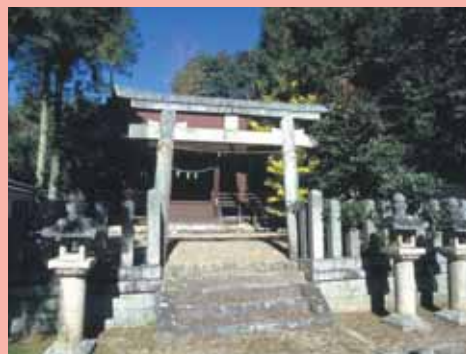
中秋の名月のもと、竹灯りに揺らぐ幻想的な灯火。
平成7年から始まった「かぐや姫まつり」は、竹取公園で2日間にわたって開催される、広陵町の人気イベントです。
町民のみなさんによる「芸能発表」や、子どもたちがかぐや姫・貴公子に扮したかぐや姫行列などが行われる「観月の夕べ」のほか、かぐや姫みこしやこどもみこしなど、多くの賑やかな行事がステージ上に繰り広げられます。
また、会場では、ゆかりの竹を使った竹遊びや、広陵町や友好都市 福井県美浜町の物産展、各種模擬店などの催しも行われ、町内外から多数の来場者が訪れます。



まちぐるみのイベント

町民体育祭

10月上旬に広陵健民運動場で開催される町民体育祭。子どもからお年寄りまで参加できる様々な競技があり、地域の交流を深めることができます。



『竹取物語』ゆかりの地

『源氏物語』の中で、「我が国最初の物語(小説)」と書かれている『竹取物語』。

竹取の翁の名前「さぬきの造」や、かぐや姫に求婚する五人の貴公子の名前と身分などの内容から、「翁の住まいは大和国広瀬郡散吉郷(現在の広陵町)である。」と世に発表されたのは昭和29年でした。以来今日まで岩波・新潮・講談の各社の『竹取物語』の注釈にこの学説が引用されています。

広陵町にある讃岐神社は、平安初期に「官社」であった全国の神社一覧『延喜式神名帳』にも記載されている古社です。讃岐氏ゆかりの翁がこの地に住んだ、いにしえを偲ぶかのように、神社は今も築山古墳の近くの竹やぶに囲まれ、ひっそりと鎮座しています。

Koryo Festival and Event

戸閉祭(とたてまつり)

前方後円墳の後円部に本殿があり、古墳全体が神社の境内にある櫛玉比女命(くしたまひめのみこと)神社。10月31日、11月1日に行われる戸閉祭は、この古社で江戸時代より受け継がれる伝統の祭礼です。祭の時期が晩秋で寒いため、各家が戸を閉めて行ったことからその名がついたといわれています。10月31日の宵宮には、氏子4大字(南、萱野、弁財天、釣場)のだんじりが鐘・太鼓もにぎやかに神社へ入る「宮入り」が行われ、その勇壮な姿に祭は最高潮を迎えます。



立山祭

夏の終わりを告げる地蔵盆。大垣内の専光寺では、地域住民によって立山(作り物)が飾られる伝統行事「立山祭」が行われます。

これを立てないと「不治いる」(病気が事故が起きる)と伝えられ、公民館や新築をした家、婚礼があった家などでは、その年に話題となった出来事や有名になった人物を取り上げ、面白おかしく立山が飾りつけられます。

参道の両側にはぎっしりと夜店が立ち並び、祭を楽しむ人々が賑わいます。(広陵町指定文化財)



天神社の綱打ち

曾我川の川岸にある広瀬の天神社には、鎮守の杜と境内をとり囲むように長いしめ縄が渡されています。これは豊作祈願と曾我川の氾濫、疫病等の災いを防ぐためのもの。

毎年1月初旬、氏子は持ち寄った藁を3本撚りで太くし、直径約10cm、100m以上のしめ縄を2本作ります。その後、米や酒で清められたしめ縄は、神社北側の入口を中心に取り付けられます。

氏神を守ることで地域を守る。「綱打ち」は氏子の思いがこもる伝統行事です。(広陵町指定文化財)



町民マラソン大会

寒さ厳しい1月に町民マラソン大会が行われます。小学生から50歳以上まで、男女、年齢、距離別に部門が設けられ、沿道の声援を受けながら、ランナーが力走します。



文化祭

平成23年に50回を迎えた文化祭は毎年11月上旬に開催。中央公民館・中央体育館を会場に、文化歴史講演会をはじめ、子どもたちの作品展、公民会活動発表会などが行われます。

人をつなぐ
人がつながる
広陵町の

イベント

伝統が生きる まちの産業

広陵町産業

靴下

業

まちの立地条件、
気候、個性を生かし、
更なる発展を
目指します。

国内生産高トップクラスの 「靴下のまち」

江戸時代には大和木綿、足袋の産地として知られた広陵町。その背景を活かし明治末期にアメリカより靴下用の手回し編み機を導入、大正時代には自動編み立て機も導入され、農家が農閑期に行う副業として広く定着しました。始まりから100年、日本の靴下生産地である奈良県の中核産地として発展し、広陵町は国内の靴下生産業界に揺るぎない地位を築いています。

最近では中国、韓国等から安価な輸入品が大量に流入してきたことにより、国内での生産量が減少傾向にあります。長い歴史の中で培った高い技術力と幅広いノウハウにより、身体に優しく履き心地の良い高い品質、ファッション性や時代を読む高いブランド力は、それぞれの分野で卓越した評価を受けています。



綿花 こだわりぬいた 良質の素材

古くから木綿で栄えた広陵町は、素材である綿花の産地でもあります。

環境保全や原材料の安全性を求める世論の高まりを受け、広陵町では遊休土地を利用し、農薬や化学肥料を使わない有機栽培、オーガニックコットンづくりに取り組んでいます。

除塩効果が高いことから、東日本大震災の被災地で綿花栽培が行われた際にも活用された広陵町のノウハウ。肌に優しく、ソフトな風合いとなるオーガニックコットンは、町の高い技術力で新しい製品づくりに生かされています。



産

故郷を支える
誇れる産業

国の野菜指定産地 町の特産野菜

広陵町の豊かな水と肥よくな土壌を生かし、昭和35年から栽培が本格的に始められた「なす」。昭和43年には「夏秋なす」、昭和62年には「冬春なす」が国の野菜指定産地となり、町を代表する特産野菜として、主に近畿圏の大都市へ出荷されています。

年間を通して出荷できる体制が整い、県下の三大産地の一つとして知名度も高いため、現在はより一層の生産性向上や、「サラダなす」等新しい品種も加えたブランド化に取り組んでいます。

また、食の安全・安心と環境への配慮が求められる今、広陵町では環境保全型農業への支援や、農業基準に適合した地場農産物の販売をする「はしお元気村朝市」ほか農産物直売体制の充実などを通して、消費者ニーズや時代変化に応えています。

広陵町産業

農業



広陵町産業

プラスチック

広陵町でプラスチック製品づくりが始まったのは昭和30年代前半。日用品にプラスチック製品が急増した昭和40年以降の積極的な設備投資により、プラスチック産業は町にしっかりと根づきました。

現在は、日用雑貨等の製造のほか、衛生管理が厳しいレトルト容器などの食品用容器や採血管などの医療用器材を扱う企業もあり、海外製品が台頭する中、各社独自の方法でプラスチックの持つ可能性を模索しています。

設備投資により
独自の
可能性の追求



広陵町の 自然

竹取公園

竹取公園は、広陵町西部にある子どもから大人までが楽しめる大型公園です。6.5haの広々とした敷地内には、子どもたちがソリ遊びを楽しめる「ちびっこゲレンデ」やネットクライミング、ローラー滑り台など多くの遊戯施設があり、休日には子どもたちの歓声が響き渡ります。

また、町内で発掘調査した遺構をもとに、古墳時代の竪穴式住居と高床式倉庫を復元した「古代住居広場」、古代の人が食べた木の実が探せる「古代の森」などがある「学びの森」、『竹取物語』の由来が書かれたパネルがある竹林など、散策しながら町ゆかりの歴史がわかるエリアも充実。せせらぎ沿いをカキツバタをはじめ四季折々の花と緑が彩る「花とせせらぎ広場」、ボール遊びやスポーツができる「みんなの広場」もあり、豊かな自然環境の中、家族やグループで楽しい一日を過ごすことができます。



自然

暮らしに寄り添う

広陵町の自然



堤防の桜

春爛漫の4月、広陵町を南北に流れる曾我川、葛城川、高田川沿いにある桜並木は見事な満開の時期を迎えます。堤防の斜面には菜の花やタンポポなどが咲き、堤防は桜とのコントラストを楽しむ町民の散策路となります。

町の中の
緑スポット

かつらぎの道

真美ヶ丘ニュータウンを南北に走るかつらぎの道は、近鉄五位堂駅前から牧野古墳へ続く歩行者と自転車の専用道路です。道幅15mの遊歩道は、緑地帯や並木、植栽による緑のゾーンが続き、澄んだ空気の中、四季折々の植物の変化を感じ、羽を休める野鳥や渡り鳥の姿を見ることができます。通勤や通学のほか、サイクリングやジョギング、散策など、日々の生活の中で自然を楽しむ多くの方に利用されています。



歴史と自然に囲まれた憩いの空間を目指し、馬見古墳群の中央群がある丘陵の東部、広陵町、河合町にまたがる地域に開園した都市公園。日本で2番目に大きい帆立貝形古墳の乙女山古墳や、造営当時の様子と現在の状態を比べられるように復元整備したナガレ山古墳などがあります。公園内は巢山古墳に隣接する「南エリア」、出土品や映像で古墳群を紹介する公園館がある「中央エリア」、広い芝生が広がる「北エリア」、約1km続く「なごみの道(緑道エリア)」に分かれています。

馬見丘陵公園



広陵パークゴルフコース

百済にある広陵パークゴルフコースは「ふれあい、健康、交流」をキーワードに、平成22年10月にオープンしました。パークゴルフは道具もルールもシンプルで、初心者、子どもから高齢者まで幅広い層が楽しめるスポーツ。美しい緑が広がる中、世代間交流の場となる「ふれあいパークゴルフ大会」などが開催されています。



南郷環濠集落

中世、外敵から自衛するため周囲に濠をめぐらした環濠集落。南郷氏の拠点であった南郷の集落には、南北約700m、東西約550mの規模で環濠が巡ります。もとは幅約3mの濠が掘られ周囲に土塁がありましたが、現在は石積が施され、環濠の一部を取り込んだ公園が植栽の緑とともに整備されており、当時の面影を伝えています。



横峯公園

真美ヶ丘ニュータウンの中にある横峯公園は、中央にあるグラウンドが雑木林に囲まれた緑多い公園です。グラウンドの周りに遊歩道、さらに雑木林の中を散策できるコースがあり、住宅街で一息つけるオアシスとなっています。

安全・安心のまちづくり

しっかりとした基盤づくりで住民の生活を支える



Introduction

安全・安心な暮らしの確保は、住みやすいまちづくりの基本です。

広陵町では、災害に強いまちづくりのために、防災倉庫の設置や防災資機材の整備、地域における自主防災組織の育成やそのリーダーとなる防災士の養成、防災訓練の実施など、人・地域・組織の強化に取り組んでいます。

交通安全対策においては、関係機関・団体との連携のもと、交通安全教育により安全意識を高めるとともに、交通公園ほか関連施設の整備を推進しています。防犯対策としては、防犯啓発活動の促進や防犯パトロールの実施、子ども110番の家、防犯灯の設置を進めるなど、町をあげての取り組みを行い、犯罪や事故のない住みよいまちづくりに成果を上げています。

また、循環型社会の実現に向けて、平成19年に運転を開始した「クリーンセンター広陵」は、最先端技術を導入したごみ処理及びリサイクルを行うほか、町民協力のもとごみ減量化の推進や資源ごみの回収、リサイクルは大きな成果を上げています。

その他、地域公共交通「広陵元気の運行」による公共交通網の活性化、町道等の計画的な整備をはじめ、土地利用計画や都市計画の見直しを図りながら、生活の基盤となる魅力ある市街地環境の形成に努めています。

Koryo Environment and Disaster prevention

町民が求める「快適住環境のまち」。消防、上水道、防犯、ごみ処理など、安全・安心・快適に暮らせる環境づくりに努めるとともに、広陵町が誇る“みどりの環境”と都市的環境が調和した基盤づくりを推進しています。



地域公共交通「広陵元気号」



文化財防火訓練



緊急時に備えた蘇生措置訓練



出初式



クリーンセンター施設見学



交通公園の交通安全教室

広陵町の 教育・福祉



“みどりの心”で 人にやさしいまちづくり



さわやか講座(地域包括)

お互いを大切に、 生きがいをもって生活するために

町民が求めるこれからの町の姿は、「子育て・教育のまち」や、「健康・福祉のまち」。

広陵町は、豊かな“みどりの環境”のもと、
支え合い人を思いやる“みどりの心”を育み、
人にやさしいまちづくりを推進しています。

Introduction

大都市に近接し、着実に人口増加が続いている広陵町においても、少子高齢化の波が訪れています。これからのまちづくりには、子どもを生み育てやすい環境づくり、高齢者の増加に即した環境づくりが求められています。

教育においては、わがまち広陵町を愛し、社会の変化に自ら考え主体的に対応できる子どもたちの育成と、すべての町民がいきがいと感動に満ちた人生を送れる文化の薫り高いまちづくりが必要です。このため、町の未来を託す「人財」の育成に向け、豊かな自然や歴史、畿央大学などの教育資源を生かした特色ある学校教育に取り組んでいます。

また、古代から続く歴史ロマン漂うまち、郷土愛にあふれる町民パワーのまちとしての特性を生かしながら、町民主体の学習・文化・スポーツ活動や、貴重な文化遺産の保存・活用を推進しています。

健康・福祉においては、人情味豊かでやさしい町民性、畿央大学との連携等、広陵町の特徴を生かし、町全体で子育て世帯を応援する子育て環境支援や、健康増進計画「笑顔で80 広陵21」による保健・医療の充実、地域福祉活動の促進等による福祉環境の充実を図り、すべての町民が住み慣れた地域で支え合いながらいきいきと健康で安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

「生きる力」と「知の循環型社会」を育む環境

教育

広陵町では、畿央大学の大学生が授業や校外学習の支援を行う学校インターンシップをはじめ、読書活動の促進や自然、歴史、産業など町の教育資源を生かした特色ある教育活動を推進し、「生きる力」を育む学校教育を実践しています。

また、生涯学習の成果が社会に還元される「知の循環型社会」の形成に向け、町立では全国有数の貸出冊数を誇る図書館や中央公民館・さわやかホールを拠点として、子どもから高齢者までを対象とした様々な講座・教室を開催し、学習機会の提供や自主的な学習活動の促進に努めています。



インターンシップ(染物遊び)



図書館講座(親子リズム体操)



中央公民館

すべての人が元気でいきいき暮らせる環境

福祉

安心して子どもを産み育てられる環境づくりとして、広陵町では、各種健康診断や予防接種の実施、親子交流の場となる「なかよし広場」や延長保育、休日保育事業、放課後子ども育成教室など子育て支援サービスの充実に努めています。

また、すべての高齢者や障がい者が元気でいきいきと暮らせるよう、健康教室・介護予防教室、認知症サポーターの養成など、福祉・介護サービスの推進を図るとともに「ふれあい・いきいきサロン」や見守り活動の充実、ユニバーサル・デザインのまちづくりなど、支え合い助け合う環境づくりを促進しています。



なかよし広場

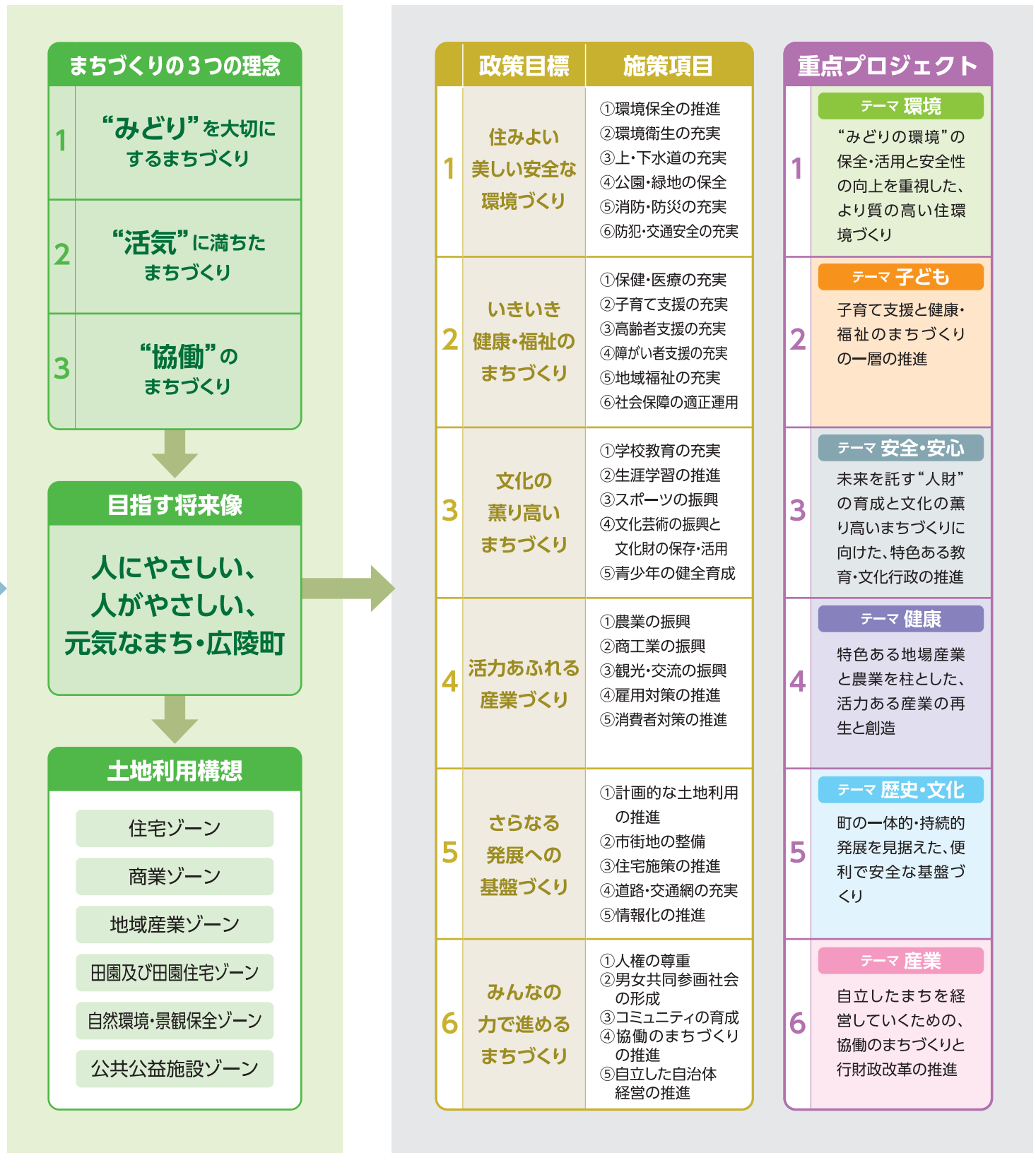


いきいきサロン



健康福祉大会

「広陵元気プラン」基本構想の構成



第4次広陵町総合計画「みんなの

広陵町の概況

位置と地勢、沿革等

- 奈良盆地の中西部に位置する
- 東部は平坦地が広がり、西部は丘陵地帯で、高田川・葛城川・曽我川が流れる
- 東西約4.5km、南北約6.0km、総面積は16.33km²
- 概ね温和だが寒暖の差がやや大きい
- 昭和30年に馬見村・瀬南村・百済村が合併し、翌年に箸尾町を編入して現在の広陵町となる

人口の状況

- 総人口34,115人、増加傾向だが近年の増加率は減少
- 年少人口比率15.8%、老年人口比率18.5%で比較的若いまちだが少子高齢化が確実に進行
- 総世帯数11,421世帯で増加傾向、一世帯当人数2.99人で減少傾向
- 平成33年の総人口の予測結果は34,397人（平成22年10月現在）

広陵町の生かすべき特性

- 1 馬見丘陵と田園空間、公園・緑地に包まれた、“みどりの環境”を誇るまち
- 2 数多くの古墳、環濠集落をはじめとする貴重な文化遺産を有する、歴史的ロマン漂うまち
- 3 奈良市へ約20km、大阪市へ約30kmと、大都市に近接する立地条件に恵まれたまち
- 4 大学や大型商業施設も立地する魅力ある「生活空間」として人口増加を続ける元気なまち
- 5 靴下やナスなど、独特の特産品を生み出す地場産業・農業がいきづくまち
- 6 地域の防災力の強化に取り組む災害に強いまち
- 7 人情味豊かでやさしい人が住み、様々な住民活動が行われている町民パワーのまち

踏まえるべき時代の流れ

- 1 東日本大震災の発生、安全・安心への意識の高まり
- 2 環境・エネルギーへの関心の高まり
- 3 教育の再生、スポーツの振興に向けた取り組みの進展
- 4 地方分権・地域主権の進展
- 5 「共生社会」づくりの重要性の高まり
- 6 地方産業活性化の重要性の高まり
- 7 少子高齢化の進行
- 8 情報化・国際化の一層の進展

広陵町的发展課題

- 1 “みどりの環境”の保全・活用と安全性の向上を重視した、より質の高い住環境づくり
- 2 子育て支援と健康・福祉のまちづくりの一層の推進
- 3 未来を託す“人財”の育成と文化の薫り高いまちづくりに向けた、特色ある教育・文化行政の推進
- 4 特色ある地場産業と農業を柱とした、活力ある産業の再生と創造
- 5 町の一体的・持続的発展を見据えた、便利で安全な基盤づくり
- 6 自立したまちを運営していくための、協働のまちづくりと行財政改革の推進

町民が求める広陵町の姿

（住民アンケート調査結果より）

①まちの各環境に関する満足度と重要度満足度

- 1位 公園・緑地の整備状況
- 2位 緑化の推進状況
- 3位 下水道の状況

不満度

- 1位 路線バスの状況
- 2位 新エネルギー導入の状況
- 3位 雇用対策の状況

重要度

- 1位 医療体制
- 2位 消防・救急体制
- 3位 上水道の状況
- 4位 防犯体制
- 5位 ごみ処理・リサイクル等の状況

②今後のまちづくりの特色

- 1位 快適住環境のまち
- 2位 健康・福祉のまち
- 3位 子育て・教育のまち

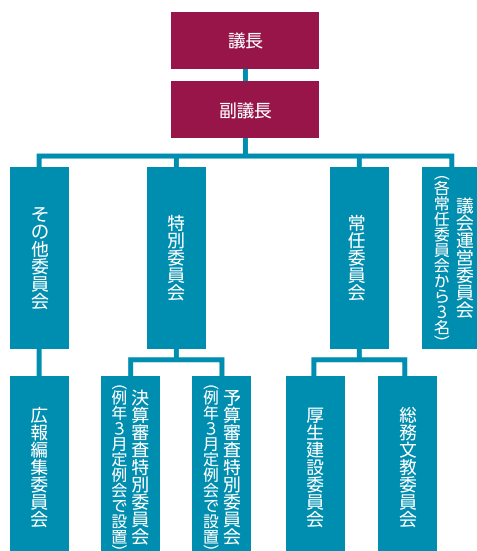
（10・20代、30代では「子育て・教育のまち」が第1位）

行政・議会

協働の まちづくりの推進



広陵町議会構成



町民による直接選挙で選ばれた、14人の議員で構成される町議会。年4回の「定例会」に加え、必要に応じ「臨時会」を開催しています。

議会では、条例の制定・改廃、予算・決算など町政に関する重要案件の各種審議、調査を行うほか、町民から寄せられたさまざまな請願について審議、審査を行い、その結果を行政に反映しています。

議会は誰もが自由に傍聴することができます。また、審議の過程や活動内容などを伝える「議会だより」や「会議録」は、町役場及び町のサービスカウンターに配置し、広陵町のホームページでも公開されています。さらに、会議内容の検索ができる「会議録検索システム」も導入、公開するなど、協働のまちづくりに向け、開かれた議会活動を積極的に展開しています。

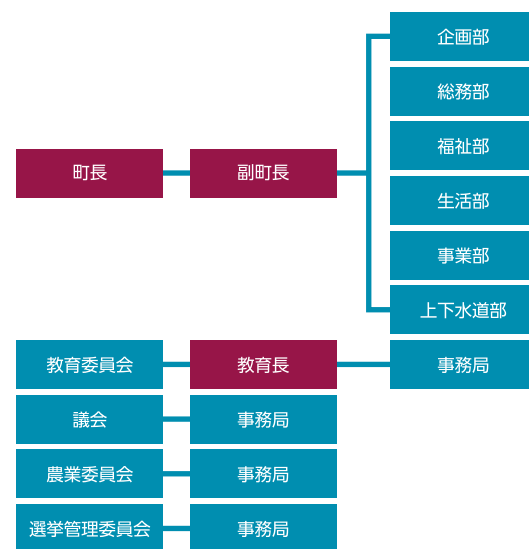


地方分権・地域主権の時代、自立した健全な町であり続けるためには、町民と行政が一体となり、協働のまちづくりを進めることが必要不可欠です。

情報公開条例を制定している広陵町では、広報紙「広報こうりょう」やホームページ等を通じた広報活動、「町長への手紙」等による広聴活動とともに、政策形成に向けた懇話会や審議会の開催、アンケート調査等の実施など、さまざまな形で町民と行政が情報・意識を共有し、協働のまちづくりを推進しています。

また、少数精鋭の体制で町民ニーズに応えるため、町民団体・企業等の参画・協働の促進や広域行政の推進などで公共サービスや組織・機構の見直しを行うとともに、職員定員の適正化、人材の育成、健全な財政運営の推進など、多面的な施策で行財政改革に努めています。

広陵町行政組織図



(左から) 松井 宏之 教育長 山村 吉由 町長 中尾 寛 副町長

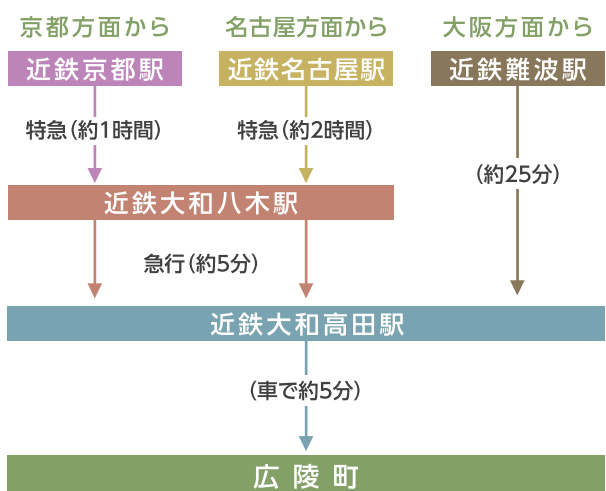


広陵町 MAP

広陵町へのアクセス



電 車 で は



車 で は

西名阪自動車道法隆寺インターチェンジから約10分





みなさんと共に「いい町」づくり

広陵町



奈良県広陵町
町勢要覧 2014



生き活き Heartful Town

発行：広陵町役場

〒635-8515 奈良県北葛城郡広陵町大字南郷 583 番地 1

TEL 0745-55-1001 FAX 0745-55-1009

URL <http://www.town.koryo.nara.jp>